



さいじょうぶ

作ろう！ 地域安全MAP

身近にある危険な場所を見つける「地域安全MAP教室」(「だいじょうぶ」キャンペーン実行委、エフエム香川主催、東京海上日動火災保険協賛)が14日、高松市牟礼町大町の市立牟礼南小であった。児童や保護者ら約40人が参加し、学校周辺を探索。「危険な場所」を確認し、地図に記していった。

防犯や防災、交通安全の啓発キャンペーンとして2007年度から続く事業の一環。この日はまず、犯罪社会学者の小宮信夫・立正大教授がマイクを握り、「悪い人は見た目では分からない。人を見て判断するのではなく、危ない場所を見分けることが大切」と指摘。「入りやすく、見えにくい」のキーワードを紹介し、誰でも立ち入れる場所や、周囲から視界が遮られる場所には注意し、近寄らないよう説明した。

その後、参加者は校区内に出て、東京海上日動火災やその代理店の社員らスタッフの指導を受けながら、危ない場所を探して歩いた。「ここは壁が高いから見えにくい」な

児童、校区内を探索

高松市牟礼南小

どと話しながら、気になった場所を撮影。学校に戻った後、地図上に写真やコメントを貼り付けて「地域安全MAP」を完成させた。

同校4年の穴山沙紀さん(10)は「普段通る道にも危険な所がいっぱいあった。気をつけて通学したい」と話した。

小宮教授は「危ない場所に行かなければならない場合は、誰かに同行してもらうことが大切。危ないのか、安全なのか見分けるために、周囲に注意を払い、景色をしっかり見てほしい」と呼び掛けた。【待鳥航志】



学校周辺で撮影してきた危ない場所の写真を、地図に貼り付けていく子どもたち。高松市の牟礼南小で